

## (一社) 北辰会、組織再編を受けて

2024年3月吉日 竹下有

2024年(令和6年)4月、2009年(平成21年)2月に社団法人化してから15周年を迎えた(一社)北辰会の組織再編が行われ、1996年(平成8年)から、約28年に渡って精力的に活動を続けてきた関東支部は、発展的に解消され、本部と一体化する運びとなった。

もちろん今後も、定例勉強会の会場は大阪(関西部会)、東京(関東部会)に分かれて、これまでと変わらず行われ、年に二回の大研修会(夏季、冬季)も、大阪と東京にて継続していく予定である。

元々、初代関東支部長である中村順一先生が、1983年(昭和58年)に『針灸舌診アトラス』に出会い、北辰会方式に惚れ込んだことが端緒となって、1996年(平成8年)に創設された関東支部が、約30年の時を経て、ついに本部と一つになったということは、大変喜ばしく、画期的なことであり、今後の会全体の益々の発展を予感させる慶事と受け止めていだろう。

関東支部黎明期から創設当初(1990年代初頭～中盤)は、本部との連絡手段は電話とFAXであり、毎月、重い撮影機材を担いで本部の定例勉強会の会場まで、群馬から車を数時間かけて運転して行き、本部定例会の様子を8mmビデオに録画しては関東に持って帰り、それをVHSにダビングしたものを、本部まで来られない先生方で集まって視聴しながら学びを進めたのが、関東支部の始まりだと伺っている。

それが現在では、学習用の書籍も90年代初頭とは比較にならないほど充実しており、関東支部と本部の役員は、まるですぐ近所にいるかのように、毎日のようにチャットワークやメールなどで活発にやり取りし、講義動画や各種古典や舌の画像なども、データで即時にやり取りがなされ、オンライン会議で顔を合わせて論議することや、会員に向けたオンライン講義や、事後のアーカイブ配信も簡単に出来ている。さらに会員諸氏は、eラーニングのページにアクセスすれば、世界中のどこからでも簡単に、基礎から臨床までの講義動画を、いつでも何回でも視聴出来るインフラが整っている。

また近年では、関東支部の若き講師陣も数、質ともに充実してきており、今後の数十年の発展を考えて、組織再編(一本化)を図るには誠に良いタイミングではないかと思う。

しかしながら、こうした発展に浮かれて、足元を見失わないように、北辰会の会員諸氏(特に関東以東の)が、自分たちがなぜ関東で容易に北辰会方式を学ぶことが出来ているのか、その始まりは何だったのか、ここまでの優れたインフラが整備されていったのには、どういった経緯があったのかを忘れないためにも、「飲水思源」の精神で、ここに、関東支部の歴史と、初代支部長であり創設者である、中村順一先生を顕彰する記録を残しておく。

## 【北辰会関東支部の歴史】

### ■1983年（昭和58年）

群馬の中村順一先生（当時35歳）が『やさしい中医学入門』の著者である関口善太先生に紹介され、藤本蓮風会長の共著本『針灸舌診アトラス』と出会い、感銘を受け、以後、独学で北辰会方式を学び始める。

### ■1990年（平成2年）

中村先生、蓮風先生に直に面会したいとの書簡を書く。

（『ほくと』7号「群馬の同士からの手紙」に全文記載）

☞書簡の内容を一部抜粋「・・・本物になりたいのです。もっと患者さんの役に立ちたいのです。この思いを持っている者が他にもいます。この灯を消したくないのです・・・」

### ■1990年代前半

藤本蓮風会長、群馬県、栃木県にて、盛んに招待講演を行う。

- ・1992年2月 群馬県鍼灸師会主催@水上町「公開臨床 便秘症」

（『鍼灸医学における実践から理論へ パート2』P117にテープ起こしが記載）

☞因みに、この時の講演会後の宴会での様子が『ほくと』12号に「藤本蓮風先生群馬講演会宴会語録」としてテープ起こしされている。貴重な記録であり、上記図書と合わせて必読。

- ・1993年2月 群馬県鍼灸師会主催@高崎市「北辰の医学」

11月 栃木県鍼灸師会主催「舌診学」

- ・1994年2月 群馬県鍼灸師会主催@高崎市「痺証①」

9月 栃木県鍼灸師会主催「腹診法」

- ・1995年2月 群馬県鍼灸師会主催@高崎市「痺証②」

3月 栃木県鍼灸師会主催「気色診・原穴診・背候診」

9月 全日本鍼灸学会関東甲信越ブロック@群馬県上牧町「伝統医学はいかにあるべきか」

### ■1996年（平成8年）5月18日

主に当時存在した「北関東中医学研究会」のメンバーであった群馬、栃木、埼玉の有志を中心として、「北辰会関東支部」が設立される。中村先生は初代支部長に就任。設立記念パーティーは品川プリンスホテル、来賓は後藤修司先生、島田隆司先生、小川卓良先生。（『ほくと』18号に記録あり）

### ■同年5月24日

東京衛生学園専門学校にて関東支部旗揚げ記念講演「公開臨床 強皮症の疑い」。

### ■1997年（平成9年）1月20日

持病の肝硬変などの悪化により中村先生永眠（享年48歳）。一時は存続も危ぶまれたが、二代目支部長、

三上孝先生、副支部長、竹下謙先生の体制で、精力的に活動を継続。

(この時の中村先生の克明な闘病記録は関東支部資料集『順雪①』に記録あり)

#### ■同年 5 月 25 日～2005 年

関東支部機関誌『天枢』発行。

(『ほくと』21号に紹介記事あり。2005年頃、『ほくと』の充実のため、発刊終了)

#### ■1998年(平成10年)2月7～8日

第一回「順雪会(じゅんせつえ)※」開催。

※「順雪会」は初代支部長、中村先生の遺徳を顕彰し、追悼するイベントと、宿泊型勉強会を兼ねたイベントとして、中村先生の故郷である群馬にて開催された。以降、年に一回継続開催され、現在の「冬季研修会」の原型となった。1990年代前半に行われた、蓮風会長の群馬での招待講演がある日はいつも大雪が降ったことに因んで、「雪」と順一先生の「順」の字を取って、当時の竹下謙副支部長がイベント名を「順雪会」とした。(『ほくと』22号に記事あり)

■2001年(平成13年) 関東支部資料集『順雪①』発刊。徐々に活動拠点を東京に移す。

■2004年(平成16年) 関東支部資料集『順雪②』発刊。東京、首都圏の会員が増加。

■2005年(平成17年) 三代目支部長に久保啓先生が就任。

■2009年(平成21年) 四代目支部長に尾崎真哉先生が就任。北辰会が一般社団法人化。

■2014年(平成26年) 関東支部資料集『順雪③』発刊。

■2018年(平成30年) 北辰会代表理事が藤本新風先生に交代。藤本蓮風先生は会長となる。

#### ■2024年(令和6年)

法人化15周年、組織再編により、本部と支部は一体化し、関東支部は発展的に解消。尾崎真哉支部長は、本部の油谷真空先生とともに副代表に就任。新たに関西部会、関東部会として活動を継続することとなる。

1968年(昭和43年)に、藤本蓮風先生を代表として設立された大阪経絡学説研究会を母体として、1979年(昭和54年)に北辰会が設立されてから17年、また、1983年(昭和58年)に中村順一先生が『針灸舌診アトラス』に感銘を受けてから13年の歳月を経て、1996年(平成8年)に北辰会関東支部は設立され、それから28年後の2024年(令和6年)、本部と支部は一本化する運びとなった。

【初代支部長 北辰会関東支部創設者 中村順一先生について】



↑↑1990年代初頭、群馬での講演会後の写真。右は当時の藤本蓮風会長。

■昭和23年（1948年）3月31日

終戦の約3年後に、群馬県新田郡新田町に生まれる。（因みに蓮風会長は昭和18年（1943年）生）

幼少期より病弱であり、赤痢、疫痢、百日咳、蝦蟆瘡（流行性耳下腺炎）、扁桃腺炎、小児リウマチやペーチェット病などに罹患。医師からは「もう治らない。」と常々言われていたが、東洋医学の先生からは「大丈夫、必ずよくなる。」と励まされ、希望を持つことが出来たという。

### ■昭和 50 年（1975 年）、27 歳頃

鍼灸・食養生・運動療法などでリウマチが寛解。

### ■昭和 51 年（1976 年）

東京、早稲田鍼灸専門学校入学。

卒後、『G・P エネルギー療法』の著者、富崎源一先生に師事し、脈診を学ぶ。

富崎先生死去後、郄穴の研究で知られる鳥谷部とし子先生にも師事。

その後、群馬に帰郷して開業し、（公社）群馬県鍼灸師会学術部長、青年部長、（公社）日本鍼灸学会群馬  
地方会会長を歴任。

### ■昭和 54 年（1979 年）

関西にて「北辰会」が設立される。

### ■昭和 58 年（1983 年）、35 歳

『針灸舌診アトラス』の論理性と、写真の美しさに感銘を受け、その後も独学にて中医学や、北辰会方式  
の勉強を継続する。

### ■平成 2 年（1990 年）、42 歳

中村先生からの書簡による、藤本蓮風会長への面会、講演依頼から、御二人の関係性が始まる。

### ■平成 4 年（1992 年）、44 歳

北辰会に入会。

### ■平成 8 年（1996）5 月 18 日、48 歳

北辰会関東支部設立、初代支部長に就任。

### ■同年 12 月 4 日

体調を崩す。（感冒様症状から始まり、全身状態の悪化。）

☞この時、12 月 18 日に、奈良から群馬まで、藤本蓮風会長がジェットヘリをチャーターして往診に来ら  
れたエピソードや、日に日に体調が悪化する中でも、最後まで自分の体の状態を通じて、支部の会員の手  
を取って熱く指導していたこと、西洋医学的な治療をギリギリまで拒み、「順一は、生きるも死ぬも北辰  
会方式でいきたい。」という名言を残したことなどが、現在も語り継がれている。

### ■平成 9 年（1997）1 月 20 日

持病の肝硬変などの悪化により永眠。（享年 48 歳。克明な闘病記録は関東支部資料集『順雪①』に記載。  
藤本蓮風会長による弔辞は『ほくと』19 号に掲載。）

## 北辰会組織再編に寄せて

名誉会員 元支部長（二代目） 三上孝

北辰会組織再編にあたり、その思いをひと言述べさせていただきます。

私達、関東支部創設メンバーの北辰会との出会いは、故中村順一初代支部長に紹介された、藤本蓮風会長が共著執筆された、『針灸舌診アトラス』の本からの出会いでした。

そして、この素晴らしい教えを請うべく、群馬、栃木、埼玉の同士と一緒に、中村順一先生を支部長として、この世の中の病める患者さんの為に、北辰会の持っている思い、そして病治しへと導くプロセスを後世に残したいという思いで、当時、本部の大八木先生とも協議を重ねた結果、関東支部創設の運びに成りました。

いつもトップを歩まれる藤本蓮風先生の、患者さんへの思いを向けられる姿に学び、今では代表理事になられた藤本新風先生の運営のもとに、益々北辰会の同志仲間と一緒に、今後も歩んでいきたいと存じます。

ぜひ、藤本蓮風先生の治療をみて、その熱い思いを目に焼き付けて下さい。

それが、中村順一先生も天国で望んでいる事です。

今後も、中村順一先生を知らない、若い先生方とも思いを一つに、素晴らしいこの医学を役立たせたい、患者さんを治したいという純粋な思い、鍼灸は楽しい自然医学だという事を、一緒に継承していきたいと考えて居ります。

## 北辰会再編に寄せて

名誉会員 元副支部長 竹下謙

1996年に関東支部が発足し、歴史の中で今回、新体制になるとの事。

ネットを使った定例会の運営や教育制度、会員のクラス分け等、近年の北辰会の運営には目を見張るものがあります。

まさに新時代の研究団体のあるべき姿を示していると思います。

かつての北辰会は蓮風先生の私塾でした。それが次第に組織化し、現在の形になっていくのですが、思いつく点を述べてお祝いの言葉とします。

・我々の技術は「手から手へ」が何ととっても基本です。そのための実技指導は十分大切にされていますが、この点を徹底的に会のベースにして欲しいと思います。

・昔は研修会で酔って大暴れしたり、一晩中議論したりと古き良き時代でした。今はそういう時代ではありませんが、やはり集まって食事をしたり話したりといった機会は必要です。人間関係は交わることを通じて形成されるのです。

・会に出て勉強して帰るだけでは、絶対に大切なことは身に付きません。アウトサイドからインサイドへ。その扉を開けるカギは皆さんの「心」にあります。

蓮風先生は以前私達に「人にはレベルの差がある。しかし北辰会の基礎をしっかりと身に付ければ世間では立派な名人になれる。」と、教えてくれました。私もこれから機会があれば、北辰会の生きた歴史を皆さんに披露して行きたいと思います。

北辰会の益々の発展を祈ります。

## 北辰会再編に寄せて

名誉会員 元支部学術部長 金子行雄

何か書くことが思い当たりませんが、短く一言書かせていただきます。

今から三十数年前に、蓮風会長とお会いしました。

その「気」から、この先生は本物だと直感しました。

言っておられる事と、おやりになっている事が一つなんだと思いました。

それから30年以上経ちますが、今も楽しく臨床をさせて頂いております。

まだまだ修行中ですが、本物の道の上を歩かせて頂いている事を感謝しつつ、今後も歩ませていただきたいと願っております。



↑↑1996年12月、藤本蓮風先生が奈良からへりにて中村先生の往診に来た際の貴重な写真。写真左上が金子行雄先生、右上が三上孝先生、中央が竹下謙先生、左下が中村順一先生、右下が藤本蓮風先生。

この5人の信頼関係から、北辰会関東支部は始まった。